

未来が変わる。  
日本が変わる。



シマダヤ株式会社は、政府主催 温暖化防止のための国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。



## シマダヤ株式会社

### CSR推進室

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11  
TEL:03-5489-5586/FAX:03-5489-5056  
<http://www.shimadaya.co.jp/>

おいしい笑顔  
をお届けします



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で認証された適切に管理された森林からの原料を含む、FSC認証紙を使用しています。



グリーンプリンティング認定制度を取得している工場印刷しています。



印刷時に有害な物質を含む浸し水が不要な、水なし印刷を採用しています。

シマダヤグループ  
社会・環境報告書

2013

# おいしい笑顔をお届けします

これは、私たちシマダヤの経営コンセプトです。たくさんの人に「おいしい!」の笑顔をお届けしたい。私たちシマダヤは、安全・安心でおいしい商品をお客様にお届けするために、さまざまな立場で日々努力しています。

📷 埼玉シマダヤ株式会社  
毎日の厳しいチェックは  
欠かせません



📷 広域営業部  
プレゼンテーションで新しい  
商品を説明しています

📷 海外事業戦略室  
海外のお客様に商品をお届けする  
取り組みも行っていきます



📷 埼玉シマダヤ株式会社  
安全・安心な商品をお届けするために  
厳しいチェックを重ねています

📷 埼玉シマダヤ株式会社



📷 家庭用チルド営業部  
より多くのお客様に商品をお届け  
できるよう営業しています



📷 株式会社群麺センター



📷 チルドマーケティング部  
「おいしい」をお届けするために  
何度も試食を行います



📷 お客様相談室  
お客様からのお電話にも  
丁寧にお応えしています

📷 原材料部  
お取引先との打ち合わせも  
念入りに行います



📷 埼玉シマダヤ株式会社  
種の製造工程の温度管理は  
重要なチェックポイントです



📷 埼玉シマダヤ株式会社  
梱包のための段ボールも  
しっかり管理しています



「おいしい」をお届けしたい



📷 株式会社群麺センター

撮影協力者 📷 ▶ **シマダヤ株式会社** 広域営業部:松沼 祥太郎 家庭用チルド営業部:橋本 拓磨 海外事業戦略室:梶村 啓子 マーケティング戦略室:川村 優希  
CSR推進室:加藤 伸一、藤田 賢 原材料部:石田 雅士、鈴木 正幸、原田 寿雄、水沢 俊郎 **埼玉シマダヤ株式会社** 製造部:多和田 新太郎、  
**株式会社群麺センター** 製造一課:桜井 将之 工務係:関口 洋一 総務課:清水 沙由梨、池田 阿利紗

チルドマーケティング部:小倉 淳、岡野 晴香 経営戦略室:白旗 祐樹  
佐藤 奈津子、桑嶋 彩香、大嶋 由香里 品質管理室:齋藤 紗笑

シマダヤ  
グループの  
事業

家庭用事業

業務用事業

海外事業

沿革  
HISTORY

1931 (昭和6年) 創業 牧清雄が愛知県名古屋市中区(現昭和区)において米穀業「島田屋商店」を開始

1949 (昭和24年) 愛知県名古屋市中区伊達町に移転「株式会社島田屋」を設立、製麺業を開始

1950 (昭和25年) ゆで麺(玉うどん)の製造開始

1951 (昭和26年) 「栄養うどん」の開発および生産販売を開始

1953 (昭和28年) 本社を東京都渋谷区伊達町に移転

1955 (昭和30年) 「株式会社島田屋本店」設立

1960 (昭和35年) 日本最初の自動ゆで麺製造装置開発

1963 (昭和38年) 完全包装工場が昭島市に完成

1977 (昭和52年) 「株式会社島田屋」が「株式会社島田屋本店」と吸収合併し、「株式会社島田屋本店」に社名変更

1978 (昭和53年) 「クリーン&コールドシステム」による製品の製造開始

1979 (昭和54年) 業務用冷凍麺の販売開始

1983 (昭和58年) 日本最初の近代的製麺工場「新東京工場」が完成

1986 (昭和61年) 味の素株式会社と業務提携(2007年3月提携解消)

1986 (昭和61年) 日本食糧新聞、戦後50年食品産業貢献賞受賞

1995 (平成7年) 「シマダヤ株式会社」に社名変更

1997 (平成9年) 代表取締役社長に近藤郁雄就任

1998 (平成10年) シマダヤHACCP※導入開始

2000 (平成12年) 家庭用冷凍麺の販売開始

2002 (平成14年) シマダヤロジスティクスセンター(SLC)開設

2003 (平成15年) 新CI導入によりCIマーク変更、「おいしい笑顔をお届けします」を経営コンセプトに制定

2004 (平成16年) 開発研究所を新設

2006 (平成18年) 東京工場を分社化し、東京シマダヤ株式会社を設立

2008 (平成20年) 環境取り組み拡大を開始

2010 (平成22年) 「エコスリム包装」を採用した商品発売

2011 (平成23年) 「第41回食品産業技術功労賞」環境(CSR部門)受賞

2012 (平成24年) 中国大連にて業務用冷凍麺の製造・販売開始

家庭用事業

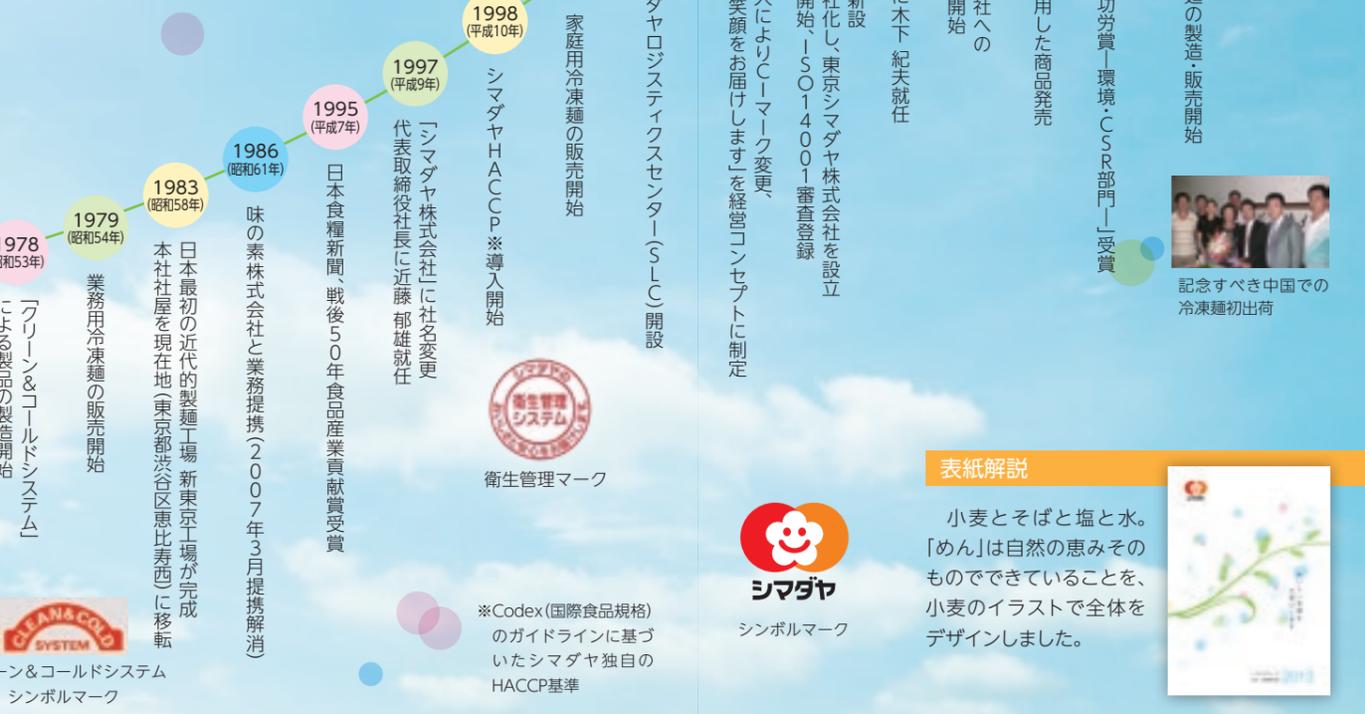
うどん・そば・中華麺・焼そば・パスタなどを中心に、一般家庭用麺(チルド麺、冷凍麺)をスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどで販売しています。チルド麺の「さっと水を通すだけでゆでず」に簡単に食べられる「流水麺」、冷凍麺の「国産小麦粉を使用し、つるつるしたのどごしの良さ」と抜群のコシがある「稲庭風細うどん」などバラエティ豊かな商品を取りそろえています。

海外事業

東南アジア、北米、EU、オセアニアと35以上にわたる国や地域に外食市場向けの冷凍麺、ロングライフ麺を輸出しています。また、中国の大連に生産ラインを設け、現地の嗜好やニーズに沿った業務用冷凍麺の販売を開始し好評をいただいております。今後もおいしい笑顔の世界に届けるべく、さらなる市場開拓に取り組んでいきます。

業務用事業

うどん・そば・ラーメン・パスタを中心とした冷凍麺を、従業員食堂や学校給食・高速道路のサービスエリア・パーキングエリアやレジャー施設などの外食業態、スーパーマーケットの惣菜や持ち帰り弁当などの中食業態向けなどに販売しています。2012年から、健康に関する食材を盛り込んだメニューレシピ集「麺テナンス®」をお客様に提案しています。



シマダヤ  
シンボルマーク

表紙解説

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものでできていることを、小麦のイラストで全体をデザインしました。



目次

05 トップメッセージ

特集 シマダヤの「こだわり」

07 特集 シマダヤの「こだわり」:安全・安心・おいしさ  
1 北海道 幌加内産の「こだわりのそば」をお届けします



09 特集 シマダヤの「こだわり」:地球環境  
2 「健やかな地球」を未来に託すためのこだわり



11 社会性報告

- 社会と共に
- お客様と共に
- 子どもたちと共に

15 環境報告

- シマダヤグループの環境取り組みについて
- P.計画
- D.活動の内容
- C.A.チェックと見直し
- 情報公開

26 第三者意見

編集方針

シマダヤグループでは、ISO14001適用事業所で「シマダヤ環境マネジメントシステム」のもと環境活動を推進しています。「社会・環境報告書」では、各社の社会貢献活動および環境取り組みの活動について掲載しています。従業員の教育の目的もあるため、今号では特に環境取り組みのPDCAの一連の流れがわかるように掲載しました。

対象範囲および対象分野

シマダヤグループのうち、シマダヤおよびISO14001適用事業所である工場の「社会的取り組み」および「環境取り組み」について掲載しています。

対象期間

2012年4月から2013年3月(活動については直近のものも含む)

発行

2013年8月発行

シマダヤグループ概要 ISO14001適用事業所



シマダヤ株式会社

設立 1949年3月  
資本金 10億円  
代表者 代表取締役社長 木下 紀夫  
従業員数 301名 (2013年3月末現在)

事業内容 麺類および関連食品の企画および販売  
所在地 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11  
売上高 351億円 (2013年3月期)  
事業所数 本社1、支店3、ロジスティクスセンター1、開発研究所1



東京シマダヤ株式会社

設立 2004年4月  
所在地 東京都昭島市



埼玉シマダヤ株式会社

設立 1971年8月  
所在地 群馬県前橋市



宮城シマダヤ株式会社 古川工場

設立 1972年10月  
所在地 宮城県大崎市



高砂食品株式会社

設立 1964年2月  
所在地 埼玉県深谷市



宮城シマダヤ株式会社 郡山工場

設立 1989年11月  
所在地 福島県本宮市



株式会社群麺センター

設立 1988年3月  
所在地 群馬県前橋市



中部シマダヤ株式会社

設立 1998年5月  
所在地 岐阜県安八郡



丸中製麺株式会社

設立 1969年1月  
所在地 滋賀県近江八幡市



エス・エス・デリカ株式会社

設立 2006年2月  
所在地 千葉県松戸市



# シマダヤグループは、チルド麺 冷凍麺の専門メーカーとして 社会・環境への責任を果たします



代表取締役社長

木下 紀夫

## 「環境へのこだわり」と「商品価値向上」こそが シマダヤブランドの育成

シマダヤグループは、2012年度から新たに3年間の中期環境目的・目標を定め、取り組みを開始しました。その中には「廃棄物の削減」「CO<sub>2</sub>排出量の削減」「容器包装重量の削減と資材の有効活用」「環境会計の導入整備と環境教育の推進」「地域貢献活動の推進」という5つの重点テーマを掲げています。初年度の状況としては、容器包装重量の削減に遅れが出ていますが、その他はおおむね順調に成果を上げることができました。

こうした環境保全への取り組みは、食品メーカーとして追求する競争力の向上に結び付いています。食品業界では現在、原材料価格・エネルギーコストの高騰と、プライベートブランド商品の増加などを背景とする価格競争の激化により、一層の生産効率化とコストダウンが求められています。

その中で、シマダヤグループが継続している環境行動は、生産面において省エネ・省資源によるコストダウンと効率改善をもたらしました。

一方、販売面では、加熱不要で水の使用も少なく、調理時間の短縮という点でもエコにつながる「流水麺」が近年売上を拡大しており、今後も販売を強化していく方針です。また、2013年度は、トレーのないエコ商品を対象とするキャンペーンを実施するなど、「環境に配慮した商品づくり」をお客様に効果的にアピールする取り組みを開始しました。

私たちは、開発・生産・販売を通して「環境へのこだわり」の意識をより高め、シマダヤブランドのさらなるイメージ向上につなげていきます。特に、今後は中期環境目的・目標の重点テーマ「環境会計の導入整備と環境教育の推進」は、環境行動による効果をより明確にし、グループ全体の理解を深めるための基盤作りとして注力していきます。

## 「おいしさへのこだわり」とともに 原料、機能性、健康の3つの要素を重視

商品価値を高めていく上で、私たちが大切にしているもう一つのこだわりは「おいしさ」です。加工食品メーカーとしては、商品の安全・安心を維持することが絶対ですが、それを踏まえつつ、味のよさを追求していくことが求められます。シマダヤグループは、お客様に美味しい笑顔をお届けする

ために、原料、機能性、健康という3つの要素を重視しています。

原料については、産地のトレーサビリティを確保することで、安全・安心および品質を維持しています。さらに、それを商品価値の向上に生かす取り組みとして、北海道幌加内町の契約農家で栽培した原料を使用した「石臼挽きそば」を発売しました。今後、こうした限定産地による味の追求を、他の原料にも展開していきたいと考えています。

機能性については、開封しやすいパッケージや調理の簡便化など、お客様の手間を軽減し、利便性を高めていく取り組みに注力しています。こうした機能性は、商品への支持や満足度の向上をもたらす、シマダヤブランドへの信頼につながる大事な要素です。

そして、今後の高齢化社会において重要性が高まっていくテーマとして、健康への取り組みに着手していきます。食事量やカロリーのコントロール、減塩といった健康維持を目的とする食事への関心は、最近特に男女問わず50～60歳代の間で大きな広がりを見せています。そうしたニーズに向けて、シマダヤの商品ができることは何かを考えながら、現在、商品開発への体制固めを行っているところです。

## 社は「奉仕・努力」を原点に 社会・環境との関係構築を再認識

今年はシマダヤの創業者である牧 清雄の生誕から100周年を迎えました。創業者は、シマダヤの社是として「奉仕・努力」という言葉を掲げました。生誕100周年を機に、私たちはあらためてこの「奉仕・努力」という社是を原点として、社会・環境との関係構築について考えていきたいと思っています。

「奉仕・努力」という社是には、事業活動を通してお客様に信頼されることが報酬につながり、その努力を惜しんで企業として存続することができない、という創業者の想いが込められています。時代が移っても変わることのない社会への約束として、私たちはそれを守っていかなくてはなりません。

シマダヤグループは、皆様から信頼される存在として、社会・環境への責任を果たすとともに、事業をさらに拡大させ、持続的に発展していく企業を目指します。その実現に向けて、引き続き一層の「奉仕・努力」を重ねてまいります。

2013年8月



特集 1

シマダヤの「こだわり」:安全・安心・おいしさ

# 北海道 幌加内産の「こだわりのそば」をお届けします

安全・安心な商品をお届けするのはもちろんのこと、「おいしい」商品をお届けすることもシマダヤの使命です。例えば「北海道幌加内産そば使用 石臼挽きそば」は、幌加内産のそばを使用したこだわりの逸品。素材選びから始まっているシマダヤの

使命です。例えば「北海道幌加内産そば使用 おいしさへのこだわりを皆様にご紹介します。

## 「安全・安心」と「おいしさ」にこだわって、上質なそばが収穫できる北海道幌加内町の農場と契約しています。

そば畑の面積と収穫量で日本一を誇る幌加内町は、北海道の北部に位置しています。四方を山々に囲まれた幌加内町は昼夜の寒暖の差が大きいので、そばにでんぷん質がしっかりと蓄えられます。でんぷん質がしっかりと蓄えられると、甘みを増すだけではなく、そばの風味・食感も良いものになるため、幌加内町では上質なそばが多く収穫されるのです。シマダヤでは、安心して召し上がっていただけるおいしいそばを全国にお届けするために、幌加内町の北村農場と契約しました。北村農場ではおいしいそばを作るために、品質の向上を目指してさまざまな取り組みを行っています。

安心して召し上がれるおいしい麺をお客様にお届けする。その使命を果たすためにも、麺作りだけではなく「上質な素材」にもシマダヤはこだわっています。

## 安全・安心で上質なそばを石臼で挽き、素材の素晴らしさを最大限引き出す。おいしさを追求するシマダヤだからこそ「こだわり」がたくさんあります。

丹精こめて作られた上質なそばを、一番おいしい形でお客様にお届けするために、麺作りの工程でも研究を重ねています。そばは熱に弱く、そばの実を粉にする工程で熱を加えすぎるとそば本来の風味と甘みがとんでしまいます。そこで余計な熱がかからない石臼挽きを用い、さらに素材の素晴らしさを最大限に生かすためにシマダヤ独自の挽き方を開発。おいしさを保ちながら、より多くのお客様に手軽に幌加内産のそばを味わっていただける「北海道幌加内産そば使用 石臼挽きそば」が完成しました。

また、おいしさを追求する努力は麺作りだけに留まりません。シマダヤ研究開発部と北村農場が協力し、いかにおいしいそばを生産するか、そばや土壌の品質向上についての研究も始めています。麺作りだけではなく、そばを育てるところから関わりをもつことで、原料の生産者と一体となりお客様においしい麺をお届けできる。シマダヤはこういった取り組みをこれからも続けていきます。



CLOSE UP 北村農場



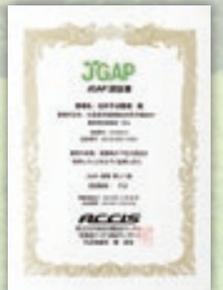
VOICE

北村農場 北村 忠一社長

シマダヤの「安全・安心」、そして「おいしさ」へのこだわりは、生産者である私の「そば作りへのこだわり」と同じでした。同じ目的を持った者同志で手をつなぎ、どうやったらもっとおいしいそばが出来るのか、共に研究しています。これからも、お客様に喜ばれる良質なそば作りを続けていきます。

## 日本で初めてそばでJGAP認証を取得した、契約農場の「北村農場」をご紹介します。

JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証で、農林水産省が導入を推奨している農業生産工程管理手法のひとつ。農薬や肥料の管理など、食の安全や環境保全に関する農作業について120を超えるチェック項目が定められています。認可を取得するには厳しい審査に対応しなければなりません。しかし、北村農場の北村社長は「食べものを生産する農家として消費者が求める安全・安心に応えたい。農家はそうあるべきだと、ずっと思っていました。」と話しています。この強い想いが日本で初めてそばでJGAP認証を取得することを実現させたのです。北村社長のそば作りへの情熱のもと、厳しいチェックをクリアして「安全・安心」なおいしいそばが生産されています。



## 「おいしいそば作り」のための取り組みを行っています。

165ヘクタールもの広大なそば畑を持つ北村農場では、おいしい良質なそばを作るために、さまざまな取り組みを行っています。例えば、堆肥の導入。そばを刈り取って実を取った後に残る茎や畑の雑草などは、農協が各そば農家から引き取って集積しています。北村農場ではそれを農協から引き取り、堆肥として使用しています。従来は不要なものとして取り扱いに困っていたものですが、堆肥として使用できるように独自に研究開発し、取り入れた仕組みです。また、間作緑肥\*として赤クローバーの栽培も行っています。そばはとても成長が早く、そばの収穫の時期には赤クローバーよりも背が高くなるため、そばを刈り取った後も赤クローバーは残ります。冬になり、枯れた赤クローバーは翌年にそのまま肥料として使えるため、自然を生かすつと土壌を改良することが可能になります。そばを食べる人に「おいしい」の笑顔を届けるために、こうしたさまざまな工夫がされています。

\*間作緑肥とは……生えている植物をそのまま土壌にすき込み、土壌中で分解させることで次の作物の肥料にすること



VOICE

シマダヤ研究開発部 廣瀬 貴一 (右) 深澤 健博 (左)



私達は、直接北村農場に赴き「そば」について勉強をさせてもらっています。原料となるそばについて深く関わることで、生産者の想いを知ることができました。今では、その想いを受け継ぎ「おいしいそば」を多くのお客様にお届けしなければいけないという使命を感じています。これからも北村農場と協力し、おいしいそばをお届けできるよう努力してまいります。



シマダヤの「こだわり」:地球環境

# 「健やかな地球」を未来に託すためのこだわり

あふれる緑、きれいな海や川…健やかな地球を未来に託すために、シマダヤは生産環境にもこだわっています。例えば、工場で発生した廃水。大切な資源である「水」をたくさん使う事業だからこそ、きれいな水を地球に返す取り組みを続けています。



多くの生物が共存できる川を維持するために、国内法で定められた厳しい排水基準をクリアしたきれいな水を自然に返しています。

埼玉シマダヤでは、主に冷凍麺を製造しています。おいしい麺を生産するためには、麺をゆでるための水、冷やすための水、機械を洗浄するための水などが必要になります。工場が発生するこれらの廃水は、1日約600トン。この水を、工場内にある排水処理施設できれいにして川に返しています。

クリアしなければなりません。そのために「活性汚泥法」という仕組みを使っています。これは、微生物に廃水の汚れを食べてもらい、水をきれいにする方法です。埼玉シマダヤでは、微生物が活発に活動できる環境が整えられているか責任者がチェックしています。例えば温度やpH値。排水が微生物に適した温度になっているか毎日確認しています。また水のアルカリ性・酸性の強度を示す

pH値も毎日計測し、水質を管理しています。

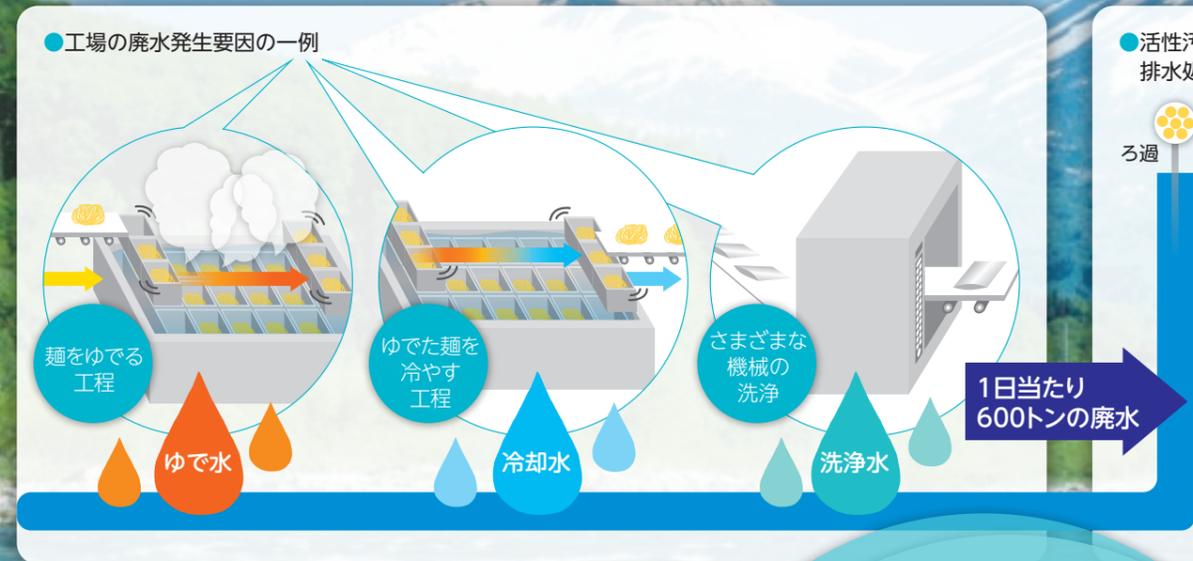
地球環境に配慮する企業として、当たり前のことを当たり前のように継続することは大切です。いつまでもお客様においしい商品をお届けできるよう、環境にも徹底的に「こだわり」をもって生産しています。

地球からの贈り物の「水」を大切に使い、酵母の力を借りながら感謝をこめて地球に返す取り組みも実施しています。

東京シマダヤでは、主にチルド麺を製造しています。麺を作るために発生した廃水は、酵母菌による特別な排水処理施設で浄化し、下水に戻しています。酵母菌を用いた排水処理施設は、産業廃棄物となる汚泥が出ない特別な設備です。この排水処理施設の1日当たりの処理能力は約800トン。もちろん、毎日の温度確認やpH値確認など、水質チェックは欠かせません。

また、限りある資源の「水」を大切に使うことも、シマダヤのこだわりのひとつ。東京シマダヤでは、シマダヤ研究開発部生産技術Gと協力し、水の再利用への取り組みも並行して実施しています。

より多くのお客様に、おいしい麺をお届けすることはシマダヤの使命です。そのためにも、品質を保ちながら、環境に配慮した生産体制をしっかりと整える努力を日々続けています。



埼玉シマダヤの平均値	7.5 ~ 7.8
国の基準	5.8 ~ 8.6
前橋市の基準	5.8 ~ 8.6
(参考値)	
自然水の pH 値	おおむね 5.0 ~ 9.0
東京の水道水	おおむね 6.7 ~ 8.3

**VOICE**

埼玉シマダヤ株式会社 技術課 岡田 伸一

必要な数値を毎日計測し、排水している河川が汚れないよう注意を払っています。また、万が一の場合でも、すぐに自分でメンテナンスができるように処理施設についての知識を身につけるよう努力しています。環境を守るためにも、これからも正直に計測を続けていきます。

**VOICE**

東京シマダヤ株式会社 取締役統括部長 一條 佳雄

東京シマダヤでは、現在年間約1億食を生産しています。しかし工場だからといって水を無駄に使うわけにはいきません。限りある大切な資源だからこそ、生産サイドで誠実に管理をする。それが我々の使命だと感じています。



# 安定して商品を供給できるようにしています

シマダヤグループでは、常に安定して商品をお客様へお届けできるよう、事業継続計画(BCP)※の構築を進めています。災害などが発生した際、対応できるように努めています。

## 事業継続計画(BCP)対策について

シマダヤでは大規模災害発生時の「従業員およびその家族の人命安全を第一とする対策を講じる」という基本方針のもと、既に導入している安否確認システムの運用テストを定期的実施しております。テストでは、本人の安否登録はもちろん、管理者による部下の安否情報確認と掲示板機能を利用した家族の安否確認も併せて行い、いざという時に迅速に確認が取れることを目指しています。

また、帰宅困難者などの事業所待機者への対策で備蓄品として既に購入している水や食料に加えて、毛布、保温アルミシート、マット、懐中電灯、ランタン、折り畳み担架、ヘルメットなどを追加購入し、全事業所に備え置きしております。

上記は東京都の帰宅困難者対策条例に対応しております。



難燃性毛布

体温の低下を防ぐために被って使用する「保温アルミシート」

事務所のフロアで横になる際に使用する「アルミマット」

ラジオ付き手回し充電懐中電灯(携帯充電コネクタ付き)

LEDソーラー・手回し充電ランタン

救助用折り畳み担架

畳めるヘルメット

## コンピュータシステムのBCP対策

シマダヤグループの災害発生時の最も重要な社会的責任は、食品企業としての供給体制を維持することです。この責任を遂行する上で欠かせないことのひとつが情報システムの機能です。シマダヤでは2012年8月に、震災などが発生しても情報システム機能を維持し、短時間で業務再開を可能にするためのBCP対策として、ホストコンピュータ(以下、HCP)をデータセンターへ移設しました。2013年1月にはHCPに障害が発生し、受信トラブルにより多くのお客様へ

ご迷惑をおかけしました。この事実を踏まえ2013年秋の完成を目的に、HCPを2台体制とする「システムの完全二重化」を進めております。二重化することで、2台間のリアルタイム同期によりソフト・ハード両面からシステムの安定稼働が可能になります。

また、システムを運用する「人」に対しては、さまざまな状況を想定したシステム障害対策訓練を実施し、緊急時に速やかに対応できるよう常日頃から備えています。

※事業継続計画(BCP)とは…

新型インフルエンザや大規模地震などの緊急事態が発生し、企業が重大な被害を受けた際にも、特定された重要な業務を中断せず、仮に中断したとしても目標復旧時間内に復旧させるための計画。



# お客様の声を大切にしています

シマダヤグループでは、お客様からいただいたご意見をもとに、商品の開発や改良の参考にさせていただいています。また、お客様相談室では、お客様対応のレベルアップのため継続して研修を受けています。

## お客様対応の品質向上への取り組み

お客様相談室では、お客様対応の品質向上を目指してコンサルタントの先生による研修を行っています。2012年は、「平準化」をスローガンに、対応における個人差を無くす取り組みを行いました。お客様対応において最も大切なのは、最初の挨拶です。お客様に好印象を持ってもらうことで、その後の電話対応もスムーズになります。オープニングによって、オペレータだけではなく、会社のイメージダウン

になってしまう恐れもあります。お客様に好印象を持ってもらうためにはどうしたら良いのかを、コンサルタントの先生のアドバイスを受けながら全員が同じレベルで対応できるようにしました。

### オープニングの基本

“名乗り”と「お電話ありがとうございます」という「明るく元気な声」で対応すること。

## お客様の「声」を生かした商品作り

お客様からのお申し出、お問い合わせは、全てお客様相談室が受け付けて、その日の内に「日報」として社内、工場に発信しています。お客様相談室では、お客様から寄せられた声を分析して商品の課題を抽出し、改善方法を含めて開発部門との会議や「お客様の声」検討会議(社長への提案の場)に提案しています。これにより、お客様の声が開発・改良

に生かされています。最近では、年配男性から調理方法についての問い合わせが多くなっています。「ゆで時間を目立つようにしてほしい」、「調理方法は絵図にしてほしい」などのご意見から、見やすい表記に変更しました。

また、お客様の声を製造現場の人に直接伝えるボイスミーティングを実施しています。お客様相談室員が工場に行き、クレームについてのお客様の厳しいご指摘や、商品を食べたおいしかったというお褒めや感謝の言葉を直接伝えていきます。2012年は、丸中製麺で実施しました。「今までお客様の顔というものをあまり意識せずに製造していましたが、これからはお客様に迷惑をかけないように、お客様に喜んでいただける商品を製造します」などの感想がありました。



[本生]ラーメンの調理方法

## 生活者の皆さんに聞きました

シマダヤでは、お客様の満足を追求するため、日々商品に対する不満の解消に努めています。その一環として、開発や改良していく商品への意見の抽出などのために、お客様と接点を持つ場として、モニター試食会を実施しています。当日は、参加者から多数のご意見をいただいています。

毎回、募集定員の4倍以上の応募があり、当社はこういっ

たファンの方々に支えられているのだと実感します。お礼としてシマダヤの特選商品詰め合わせをお渡ししており、それも好評のようです。

●「シマダヤファンサイト」を運営しています。

URL <http://monipla.jp/shimadaya/>





# 子どもたちへ麺の良さを伝えています

シマダヤグループでは、子どもたちに麺を通して食品の大切さを知ってもらうため、さまざまな取り組みを行っています。



## シマダヤでの取り組み

### 猿楽小学校のキャリア教育プログラムに協力しました

シマダヤ本社近隣の渋谷区立猿楽小学校では、5年生が総合的な学習において1年間で「麺職人」になることを目指し取り組みました。その結果を、「第21回全国小学校生活科・

総合的な学習教育研究協議会東京大会」で発表しました。シマダヤも約7ヶ月にわたり協力させていただき、最終的にキャリア教育プログラムという形になりました。

#### 活動内容

#### 「めざせ！なるんだ 麺職人」

～想って、言葉に出して、やってみて、こだわって、努力すれば、実現する～

- 2012 4月、5月 子どもたちはネットや本で調べてうどん作りに何回も挑戦する。
- 6月 おいしいうどんが出来ずに麺作りのプロを探す。
- 7月 当社に依頼があり、ネットや本には書いていない「コツ」を教えてください。おいしいうどんが作れた。
- 9月 麺職人を目指してさらに腕を磨くとともに「コツ」を記載した「とらの巻」を作成した。しかし、これで麺職人になれたかという質問には誰もが「ノー」。子どもたちは、麺作りを振り返って麺職人になるには「コツ」だけではなく「心の部分」が必要であることを知る。

#### 2013

- 10月 職人の「心の部分」をさらに知るために、職人(シマダヤ社員)の話聞く。
- 11月 全国大会で「職人が大切にしていること」について発表する。
- 12月 全国大会発表のご褒美として東京シマダヤを見学する。
- 1月 校長先生、PTA、地域の方々などに自分たちが作った手打ちうどんをごちそうする。

子どもたちは、麺作りを振り返って、また職人の話を聞いて心に残った多くの言葉の中から最終的に9つの言葉を選び、どれが大切かについて全国大会で発表しました。この教育プログラムを通して自分たちが探し出した言葉は、未来の自分にとって大切な言葉であるということ強く実感してくれたと思います。

#### 子どもたちが探し出した9つの言葉

- 「努力」、「協力」、「技」、「ほこり」、「感謝」、「向上心(まだ満足していない)」、「使命感(おいしいうどんを食べさせたい)」、「こだわり」、「あきらめない(できないは禁句)」

※キャリア教育とは：文部科学省HPより抜粋

今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践の姿です。学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達の段階にふさわしいキャリア教育をそれぞれの学校で推進・充実させましょう。



出典：猿楽小学校PTA発行「さるがく」No.195号

### 夏休み親子製麺教室を開催しました



製麺教室の様子

子どもたちに自分の親が働いている会社を理解してもらおうとともに、夏休みの自由研究などの題材提供、夏の思い出作りに少しでも役立てばと思い親子製麺教室を開催しました。

開発研究所では、手打ち麺作りと子どもたち自身で丸や角などいろいろな切り刃で麺を切る体験をしました。工場では、エアーシャワーに入るといった体験をしました。エアーシャワーでは、床にほこりや髪の毛などを取る粘着シートが敷いてあり、子どもたちは大喜びでした。(衛生に影響ない場所と方法で実施しました。)

親子、兄弟が、手打ちうどん作りや工場見学を楽しんでいる姿は微笑ましいものでした。



## 工場での取り組み

### 五百川小学校が工場見学に来社しました

2013年2月15日、宮城シマダヤ郡山工場に、本宮市立五百川小学校3年生41名が工場見学に来社しました。社会科の見学学習で、事前に質問事項がまとめられていたようで、社名の由来から、うどんを作る機械の数までさまざまな質問が出されました。工場見学では、廊下の窓越しに稼働中の機械を見学してもらい、子どもたちは背伸びをしながら興味深く見ていました。

お土産の「長持ち麺」をととても喜んでもらい、かわいい絵が描いてあるお礼の手紙を頂き温かい気持ちになりました。



お礼の手紙

### 「わのうち未来塾」で工場見学が実施されました



わのうち未来塾

中部シマダヤがある岐阜県輪之内町の教育委員会が主催する団体「わのうち未来塾」で、町の歴史と町にある工場を見学する催しが実施されました。町内に3つ

ある小学校から、4～6年生の児童25名(引率者含)が2012年8月8日中部シマダヤに来社され、工場を見学しま

した。

最初に、会社概要を話し、製麺ミキサーで練った直後の生地と包装後の製品を実際に手にしてもらいました。その後、VTRで当社の麺を作る過程を一通り説明した後、廊下の見学窓から見学してもらいました。

生地、製品を手にしたときの児童たちの驚いた声が、とても新鮮でした。



# シマダヤグループ環境マネジメントシステム

シマダヤでは2003年に「シマダヤ環境マネジメントシステム」を確立し、「シマダヤグループ環境基本方針」のもと、環境取り組みを行っています。

## シマダヤグループ環境基本方針

### 環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。シマダヤグループは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

### 環境行動指針

- 1.環境関連法規の遵守**  
社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。
- 2.資源、エネルギーの有効利用**  
資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組むとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。
- 3.継続的な環境改善**  
事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。
- 4.環境保全意識の醸成**  
情報収集及び教育を積極的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。
- 5.情報の公開**  
環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します

2004年1月19日制定  
2008年6月25日改訂

シマダヤ株式会社 代表取締役社長 **木下 紀夫**

## 環境取り組みのルール

シマダヤグループでは、「環境影響評価規程」および「環境マネジメント要綱」を制定しています。「環境影響評価規程」では、各部門の業務から環境側面を抽出し環境影響を評価し、著しい環境側面を特定する方法を定めています。「環境マネジメント要綱」には、シマダヤグループの環境マネジメントシステムに関する基本的事項が定められています。環境方針の制定から、計画・実行、記録や文書管理など、1年間の実施内容がISO14001の規格要求事項に沿って記載されています。

また、環境取り組みを推進する上で必要な法規制や条例、関係者からの要求事項などをまとめた「環境法規制等登録簿」を制定しています。これは、順守すべき法規制などの名称、内容、届出書類、管理者、対象となる施設、管理する部門名が明記されています。事業所の立地により適用される条例などが異なるため、シマダヤおよびグループ会社それぞれの「環境法規制等登録簿」を制定しています。

これらは、必要に応じて見直しを行い改訂されています。

## 推進体制

### ●環境推進組織図



「部門」単位で活動しており、環境マネジメントシステム上ではグループ会社（工場単位）も1つの部門として活動しています。

### ●活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者(シマダヤの代表取締役)
	環境管理責任者	全社の活動の責任者(シマダヤの専務取締役)
	環境推進事務局	環境管理責任者の補佐(複数部門から選任)
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者(部門長、グループ会社は社長、工場長など)
	環境推進担当者	部門活動のリーダー
事業所の推進役	事業所責任者	複数部門が属するシマダヤの事業所の課題に関する責任者

## 著しい環境側面の見直し

従来、シマダヤグループの著しい環境側面が多かったため、2012年に「環境影響評価規程」の見直しを行い、著しい環境側面を絞り込めるようにしました。年度末に各部門で、文書を見直ししています。2013年3月には、関連する部門（営業部門、生産部門など）で集まり意見交換会を実施しました。これにより、他部門と文書を比較して、環境側面の表記

を統一したり、評価を合わせたりして、著しい環境側面を整理することができました。さらに、各部門で特定された著しい環境側面から、シマダヤグループの著しい環境側面を特定しました。これらは、中期環境目的・目標の5つの重点テーマに沿った内容になっています。

## PDCAによる環境取り組みの推進

著しい環境側面を改善または向上させるため、シマダヤグループでは3年間の中期環境目的・目標を掲げ、それを達成させるために各部門が業務に沿った目的・目標を設定して取り組んでいます。今回(2012年度～2014年度)は、シマダヤの

担当役員・部門長が協議し、全社の課題を5つの重点テーマにまとめ、中期環境目的・目標としました。P(計画)→D(実行)→C(チェック)→A(見直し)に沿って活動しています。



# 中期環境目的・目標(2012~2014年度)について

2012年度の結果は下記のとおりです。

## 中期環境目的・目標 2012年度結果

### 重点テーマ① 廃棄物の削減

関連ページ P18

	目的	2012年度目標	2012年度実績	評価	コメント
グループ会社	廃棄物削減 原単位31%削減 (2010年度比)	20%削減 3.80kg/千食	20.9%削減 3.76kg/千食	○	問題点を「見える化」し、ポイントを絞り込み改善を実施。歩留りへの意識改革や設備保全により、廃棄量、原単位ともに目標を達成。
	冷凍製品の日付後返品削減 廃棄量40%削減 (2010年度比)	30%削減 9.24t	37.4%削減 8.32t	○	営業部門と情報共有などにより製品廃棄を減少。
シマダヤ	商品廃棄削減 営業部門で実態把握	チルド営業で データをとる	データ取得 5部門 7,195千円(出荷額換算)	○	定期的にデータを蓄積した。商品の販売構成の変化により、商品廃棄は増加傾向。

### 重点テーマ② CO<sub>2</sub>排出量の削減

関連ページ P19

	目的	2012年度目標	2012年度実績	評価	コメント
グループ会社	CO <sub>2</sub> 排出量削減 原単位9%削減 (2010年度比)	6.0%削減 33.40t-CO <sub>2</sub> /千食	6.6%削減 33.19t-CO <sub>2</sub> /千食	○	ボイラー燃料の変更、排熱回収装置(ヒートポンプも含む)の設置と蒸気流量計の設置を実施。電気使用量の削減は省エネ機への見直しや、冷凍機の冷媒凝縮装置の設置を実施。
シマダヤ	輸送における 環境負荷の低減	特定工場への入荷便 (中型車)減車 CO <sub>2</sub> 5%削減	474.1 t-CO <sub>2</sub> →414.7 t-CO <sub>2</sub> 12.5%削減	○	工場と管理部門で計画的に、中型車から大型車へ切り替え、配送効率を上げた。
	営業活動で使用する燃料を 効率的に活用する	各営業部門で データをとる	データ取得 7部門 給油量:160,307.2ℓ 燃費:15.3km	○	定期的にデータを蓄積した。燃費悪化の要因を過速度、過加速、急減速の3点と仮定し、改善を実施。

※工場算定範囲:東京シマダヤ、宮城シマダヤ、中部シマダヤ、エス・エス・デリカ、埼玉シマダヤ、群衆センター、高砂食品(※丸中製麺は2012年を基準とし、別途評価)  
※原単位は、千食製造または販売当たりの数値

### 重点テーマ③ 容器包装重量の削減と資材の有効活用

関連ページ P20

	目的	2012年度目標	2012年度実績	評価	コメント
シマダヤ	余剰資材削減 総売上金額の0.07%以内	総売上金額の 0.09%以内	総売上金額39,054百万円 余剰資材45百万円 総売上金額の0.11%	×	天候の変化と季節商品の終売時に大きく販売予定がずれるなど、余剰資材が増加した。

### 重点テーマ④ 環境会計の導入整備と環境教育の推進

関連ページ P21

	目的	取り組み内容
シマダヤおよび グループ会社	2015年に環境会計を公開 する準備を行う	関連部門で、運用ルール、具体的な算出方法や手順、スケジュールを検討し策定。シマダヤグループの2011年度の環境会計を作成し、検証を実施。
シマダヤ	環境教育実施による社員環 境意識の向上	シマダヤの実績 ・継続して、新入社員研修を実施／・新入社員全員がeco検定を受験 ・管理会計研修内で、環境マネジメントシステムを理解する研修を実施

### 重点テーマ⑤ 地域貢献活動の推進

関連ページ P13 P14 P22

	目的	取り組み内容
シマダヤおよび グループ会社	地域貢献活動の推進	・シマダヤの事業所および各工場周辺の清掃／・近隣小学校で麵作り教室を開催 ・工場見学を受け入れ／・各種資源の収集および寄付活動を実施 ・従業員の意識向上のため個人の貢献活動の情報収集・発信を実施



# 重点テーマ① 廃棄物の削減

麺を製造する段階、受発注または営業活動など、さまざまな場面で廃棄となる麺が発生しますが、無駄な廃棄が発生しないよう各部門で取り組みを行っています。また、やむを得ず発生した廃棄麺は、処理業者へ委託し食品リサイクルに努めています。

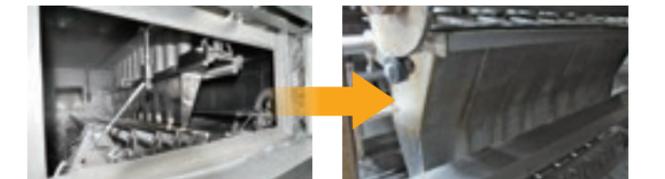


## 該当する環境行動指針 2.資源、エネルギーの有効利用

### 廃棄物削減の取り組み

東京シマダヤでは、廃棄麺が多く発生する箇所を抽出し軽過量廃棄(製品量目の上下限逸脱による廃棄)の削減を重点的に行いました。軽過量廃棄の要因は、生地状態のブレ、生切量目のブレ、ゆで・冷却ケースへの入り方が悪い、ケースから麺がこぼれる、包装中筒・ホッパーなど麺が通る箇所が引かかるなどがあります。対策として、まず、麺機の担当者へ意識付けのために軽過量数・要因をノートへ記入させました。また、ゆでケース入口の追跡シユート、ゆでケース開閉バネおよび包装中筒の改良・交換、

そしてホッパーの改良などを行いました。これらの取り組みにより、基準年(2010年度)比62.3%と大幅に削減することができました。



改良前

改良後



### 冷凍製品の日付後返品削減について

冷凍麺の賞味期限は、1年と半年の商品があります。賞味期限が長い商品でも廃棄が発生します。廃棄発生要因は、天候・気温などにより左右される夏季商品の販売計画とのズレ、販売不振による急なメニューカットなどによって出荷数が激減するためです。対策としては、出荷トレンドが減少傾向になった時、営業からの情報を収集し生産調整

(生産減産または生産中止)を行い、在庫数を減らします。在庫過多の商品は日付後返品(賞味期限の残りが3ヶ月、半年の商品は2ヶ月)になる前に営業部門と情報を共有し、販売促進策を講じながら在庫を減らし廃棄が出ないように調整します。2012年度は、倉庫入庫が前年比105%に対し廃棄は7%削減できました。



### 正確な販売見込情報の提供と記録

家庭用商品の営業部門では、商品廃棄の実態を把握するためデータを蓄積しました。商品廃棄の要因は営業自身にあることを自覚し、正確な販売見込情報を提供することで、商品廃棄削減につながります。得意先企業からの特売情報を基に、特売の種類や企画の中身に強く関心を持ち、前回は

績の出荷データと天候要因を加味しながら販売見込の情報を提供しました。その結果、データの上変動はありましたが、比較的精度を上げて取り組むことができ、商品廃棄を削減することに成功しました。今後はさらに精度を上げて、廃棄削減を進めたいと思います。



## 重点テーマ② CO<sub>2</sub>排出量の削減

シマダヤグループの活動から排出されるCO<sub>2</sub>は、工場で使用するボイラー燃料(重油、都市ガス、天然ガス)や電気から発生するものがほとんどを占めます。各工場では、ボイラー燃料の削減や節電に取り組んでいます。他にシマダヤでは、節電および営業車の燃費向上に努めました。



該当する環境行動指針 2.資源、エネルギーの有効利用



### エネルギーを効率的に使用しています

#### ボイラー燃料(都市ガス)使用量の削減について

エス・エス・デリカでは、2012年9月に2号ゆでラインに、蒸気流量低減を目的とした熱交換器を設置しました。ゆで槽からオーバーフローする排湯である98℃のお湯を熱交換器に通し、ゆで槽への足し水を昇温させゆで槽内へ給湯します。ゆで湯温度の変動を抑えることで蒸気の使用量を低減でき、ボイラー稼働率を下げ、都市ガス使用量が削減できました。設置前に比べ、約20%程度の削減効果が出

ました。ただし、ライン稼働率(時間)によって効果が大きく変動することが、今後の課題となります。また、他のラインへの導入も検討し、さらなる都市ガス使用量の削減に努めていきます。



2号熱交換機

#### 燃料の転換について



高砂食品では、2012年12月より工場で使用する燃料を重油から天然ガスに転換しました。燃料のガス化のためにガスの本管を工

天然ガスボイラー

場まで延長する工事や、ガスボイラーへの更新を行いました。その結果ボイラーの燃焼効率が5%程度向上し、CO<sub>2</sub>排出量を26%削減できました。設備更新だけでなく、蒸気の無駄を削減することで、今後さらに環境負荷を低減する努力を継続します。

#### ヒートポンプの活用について

群麺センターでは、2012年下期より冷凍機にヒートポンプを設置し、通常出来る5℃の冷水の他に65℃のお湯を1日約44t貯湯し、ゆで槽へ利用する取り組みを始めました。今までは約20℃の水をゆで槽に溜めて沸かしていましたが、貯湯されたお湯を利用することで65℃から沸かし始めることができ、スタートアップ時に使用する天然ガス使用量を大幅に削減することができました。また、貯湯タンクの容量を考慮し、排湯熱交換による貯湯量を調整することで貯湯されるお

湯の温度を上昇させ、さらなる効果を生むことができました。ヒートポンプに限らず全ての設備において、使用する側の工夫次第でその効果は大きく変わることを実感しております。今後もさらなる有効利用の可能性を模索し、環境負荷低減に貢献していきます。



ヒートポンプと貯湯タンク



## 重点テーマ③ 容器包装重量の削減と資材の有効活用

商品は、それぞれのパッケージで包装され、段ボールに詰めて出荷されます。グループ全体の生産を管理し、必要な包装資材を過不足なく準備するために、関連部門で調整を行っています。また、従来トレーを使用していた商品を、トレーがなくても包装できるようにし包装資材の削減に努めています。



該当する環境行動指針 2.資源、エネルギーの有効利用



### 包装資材が余らないよう調整しています

#### 不要な包装フィルムの在庫が出ないようにしています

シマダヤでは常に商品の品質向上に挑戦しており、包装フィルムに表示する原料内容や商品特長など、お客様が必要とされる情報も、その都度更新しています。その結果、リニューアルのたびに資材が余ってしまうことがあります。シマダヤ冷凍マーケティング部では中期環境目的に沿っ

て、原材料部、生産・物流部と共に、「余剰資材発生金額を全社売上金額の0.09%以内にする」ことに取り組みました。リニューアル予定のあるものについて、期日直前までの販売予想を試算し、関係部門と共に包装フィルム発注量を調整しています。

#### 余剰資材の削減について

シマダヤ原材料部では、包装資材、容器、スープ、具材などの当社専用資材のメーカーと当社生産工場との需給調整を行っています。これらの資材は、季節終売や商品変更で半期ごとの資材数量は1,000アイテムを超え、ミスをすると多くの資材が余ってしまい、環境に著しい負荷をかけることになります。そこで、これらを徹底的に管理し、全体の余剰資材の発生を抑え

ることで負荷を軽減してきました。

2012年度もそれらをコントロールし、徹底的に管理を行いました。夏季商品の終売時の天候と販売見込のずれ、チェックミス、また、予定外の販売中止により、当初計画を上回ってしまいました。約10アイテム前後の資材のコントロールがうまくいかなかったため、再度体制を見直しして大幅に削減したいと思



### トレーなし商品を増やしました

#### 「ざる麺」もエコスリム包装になりました

シマダヤは2012年度、新たな顧客層獲得および市場拡大に向け、主要ブランドである「ざる麺」の食数を2食入りから3食入りへ変更しました。その際、他の3食商品と形態を差別化する目的もあり、当社が2010年より推進している、環境に配慮した「トレーを使用しないピロー形態」という包装形態にしました。



新エコスリムマーク



3食「ざる麺」和風つけ

また、環境に配慮した形態であることをより分かりやすく伝えるために、葉っぱをかたどった新エコマークおよび「トレーのないエコ商品♪」というキャッチコピーへと変更しました。



重点テーマ④

# 環境会計の導入整備と環境教育の推進

シマダグループの環境取り組みにかかった費用や投資などを検証するため、環境会計の準備を行っています。また、環境教育も推進しています。各工場では、それぞれの方針に沿って教育を実施しています。



該当する環境行動指針 4.環境保全意識の醸成、5.情報の公開



環境会計の準備をしています

## 環境会計の導入整備について

企業の社会的責任として、環境情報を開示するため、2015年度環境会計公開に向けて導入準備を進めてきました。シマダグループの環境保全活動の費用対効果を明確にし、環境経営に活用するため、運用ルール、具体的な算出方法や手順、スケジュールなどを検討してきました。当社では環境会計を、環境に関する方針、目的・目標の達成度合い

を判断する指標として、さらには、環境の意識向上のツールとして有効に活用したいと考えています。

※環境会計とは：環境省HPより抜粋

企業などが持続可能な発展を目指して、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的（貨幣単位または物量単位）に測定し伝達する仕組み。



環境教育を推進しています

## 環境教育の推進について

シマダヤ人事総務部では、「環境教育実施による社員環境意識の向上」を環境目的に挙げています。2012年度は、継続して新入社員環境研修を行い、新たに5～6年目の社員を中心とした研修の中で、環境について学ぶ時間を設けました。また、新入社員全員が環境社会検定試験®(eco検定)を受験し、環境に対する意識と知識の向上を図りました。今後も「環境意識の向上」に取り組んでいきたいと思

います。また、宮城シマダヤでは、経営方針に基づき年度目標が設定され、各部門の目標が決まります。それを基に各従業員が個人の目標として「自主挑戦」を設定し、取り組んでいます。その中に「環境」の項目も含まれています。

(環境社会検定試験®は東京商工会議所の登録商標です)

### 「自主挑戦」で廃棄物削減に取り組む

宮城シマダヤ古川工場  
製造部 包装種製造  
猪俣 福代



宮城シマダヤの経営基本方針である「品質保証」「業績向上」「人材力強化」の柱の基、私たち製造部門は全てに関わってくる「廃棄物の削減」に取り組んでいます。カーボンや内袋を交換する際発生する工程廃棄を削減するため、一人ひとりが互いに意識し合い改善に取り組んでいます。その結果、廃棄物の削減はもちろんのこと不良品の早期発見・後追いにもつながっています。「自主挑戦」で目標を掲げ、一人ひとりがスキルアップを心掛け、廃棄物削減で環境への意識を高めています。

VOICE



重点テーマ⑤

# 地域貢献活動の推進

一部の事業所および工場では、その地域の美化活動を行っています。地域に愛される企業を目指しています。その他、ペットボトルのキャップや空き缶のプルトップなどを回収して寄付などを行っています。



該当する環境行動指針 4.環境保全意識の醸成



シマダヤでの取り組み

## 支店周辺の清掃活動について

シマダヤ名古屋支店は、2009年3月、現在のビルの3階に移転しました。目の前には仲ノ町公園が位置し、春には桜が咲き誇り、近くの幼稚園児、小学生や会社員の休憩スポットとなっています。

2010年～2011年度の中期環境目的方針に基づいて、「地域貢献活動」の一環として名古屋支店は環境目的のひとつに「支店前の歩道および公園植込みの清掃」を掲げました。当初は13名で始まり、最初の1、2回はとまどいもありましたが、メンバー全員が参加し協力的に清掃をしています。時には名古屋支店に来ていた他部門の人も手伝ってくれ

ました。支店会議時の20分前後という短い時間ですが、「継続は力なり」、現在では周辺の会社の方々も活動するようになりました。微力ではありますが、今後も継続していきたいと考えています。



公園植込みの清掃



支店前の歩道の清掃



工場での取り組み

## 排水処理場処理水の放流水路の定期清掃

群衆センターでは、排水処理場の放流水路の清掃（藤川への排水径路）を年2回計画し、実行しています。今回は3月26日に行いました。作業2週間前に地元の中内町自治会に連絡したところ、当日朝には自治会長が現場を通り作業を確

認されました。作業は、排水処理場の放流水出口から北関東自動車道までの水路の確認（直線で約500m）、ゴミの片付けおよび草取りを行いました。ピット内やトンネル内の清掃、土砂・缶・ビンなどを取り除きました。ゴミは土嚢袋に入れ、軽トラックで持ち帰りました。作業は3時間程で、持ち帰ったゴミは廃棄物として処理を委託しました。余談ですが、自治会長との会話のなかで、群衆センターに隣接している農業用水路の土手の大きいゴミの片付けを依頼されたので、快く引き受けて片付けました。

これからも地域の清掃活動を継続的にを行い、企業のイメージアップを図ってまいります。



側溝清掃



側溝清掃



# 全社で活動を推進しています

シマダヤグループでは、各部門で業務に沿った活動をすることを特徴としています。各部門での活動の進捗状況を3ヶ月ごとに提出させ、全社の進捗状況を確認しています。随時、各種会議を開催し、全社の状況を共有しました。2013年度からは、会社全体で会議の運営を見直すことになり、下記の会議の開催も見直ししていきます。

## 該当する環境行動指針 3.継続的な環境改善

### 担当役員・部門長による評価を行っています

各部門では、環境目的・目標を達成させるため、環境マネジメントプログラムに1年間の実施計画を記入し、3ヶ月ごとに

#### (2012年度実施状況)

実施	時間	出席者数
4回	各約1時間	10~12名/1回

実施結果を記入しCSR推進室へ提出しています。その結果を、担当役員・部門長が評価する会議を開催しています。それぞれの担当(営業部門、生産部門など)の進捗状況を共有し、課題があれば部門にフィードバックします。

### 各種会議で共有しています

環境に関する役割(p.16)ごとに、会議を開催し情報を共有しています。環境推進責任者が出席する環境会議では、全社の重要課題およびシマダヤグループの中期環境目的・目標の達成状況の確認などを行っています。環境推進担当者が出席する環境推進担当者会議では、部門の環境目的・目標の結果報告、環境マネジメント要綱などの改訂内容説明、内部監査やISOの審査結果などを共有しています。また、12月には(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社主催「エコプロダクツ」展の見学も実施しています。

#### (2012年度実施状況)

	実施	時間	出席者数
環境会議	1回	3時間	38人
環境推進担当者会議	3回	最大4時間30分	33人
環境推進事務局会議	5回	2時間30分	19人

環境推進事務局は、CSR推進室を中心にシマダヤの主な部門および各工場から任命された環境推進事務局員から構成されています。全社の環境マネジメントシステムの確立、実施、維持を推進するため、支援、調整や検討を行っています。



環境推進担当者会議

### 「環境のひろば」で情報発信

シマダヤグループでは、社内用のサイト「環境のひろば」を作成し、公開しています。シマダヤでは社内ポータルからアクセス、グループ会社ではインターネットで「環境のひろば」にアクセスしIDとパスワードを入力してログインできるように

し、いつでも最新情報が見られるようにしています。会議や研修の資料なども掲載し、共有しています。また、毎月「環境通信」を発行し、環境取り組みの内容を発信しています。



# 活動内容を見直ししています

シマダヤグループでは「環境マネジメント要綱」に基づき、定期的に活動内容を見直ししています。「環境法規制等登録簿」を基に順守状況の確認、内部監査およびマネジメントレビューを実施し、課題があれば改善しています。

## 該当する環境行動指針 1.環境関連法規の遵守 3.継続的な環境改善

### 順法性チェックの方法、工場相互監査について

「環境法規制等登録簿」(p.15)に記載された管理部門・工場では、年に1回順法性チェックリストをもとに順守状況を確認しています。CSR推進室では、各部門から提出された順法性チェックリストをもとに、グループ全体の順守状況を確認しています。さらに、工場では工場相互監査を実施しています。工場の環境推進事務局員が監査員となり他の

工場を監査します。より客観的な視点での監査が可能になるほか、事務局員のスキル向上や工場間での環境保全に関する情報交換の促進などの効果を上げています。

2012年度は、1つの工場で、放流水の基準値逸脱、代表者の変更届が未提出という不適合があり、是正処置を行いました。その他は、環境法規制の重大な違反はありませんでした。

### 2012年度内部監査について

シマダヤグループでは、2012年10月~11月に20部門を対象として内部監査を実施しました。環境マネジメントシステムに関する文書管理の不備などが指摘として挙げられ、不適合2件・改善事項7件が報告され、該当部門が是正処置を行いました。

従来、内部監査は全部門を対象として年1回の頻度で行っていましたが、被監査部門が増えたためその頻度を見直しました。2012年度からは、環境側面や環境負荷の変動が大きい工場は毎年実施し、シマダヤの部門は2年に1回で網羅するように、内部監査の実施方法を変更しました。

### 内部監査責任者を務めました

シマダヤ株式会社 研究開発部  
平川 俊明



2011年度から2年間、内部監査責任者を務めました。内部監査は、部門ごとに定めた文書化されたルールに基づいて環境活動が適正に行われているかを、チームを組んだ内部監査員が客観的に判断し、結果を被監査部門に伝えます。監査を適切に実行するために、内部監査員が事前に作成するチェックリストを確認し、アドバイスをしています。被監査部門の環境側面を反映させた質問になるように、柔軟に対応しました。

### マネジメントレビューについて

年に1回、マネジメントレビューを実施しています。ISOの適用事業所が増えたため、工場ではそれぞれレビューを行い、シマダヤへ報告しています。それらの結果も踏まえ、1年間の活動内容をまとめ、環境パフォーマンス(成果・実績)、環境目的・目標の達成状況、内部監査・外部審査の結果、法規制等の順守状況などをシマダヤの社長に報告していま

す。社長からの指示をもとに、次の活動を見直ししていきます。2012年度は、内部監査で課題が改善されない問題点を探ること、部門のモチベーションを上げる方法を検討すること、などが指示され、現在検討を行っています。





# 外部コミュニケーション

「シマダヤ環境マネジメントシステム」は、ISO14001の要求事項を満たしており審査登録されています。また、活動内容を公開しています。2012年度からは、「社会・環境報告書」に対する第三者意見もいただいています。

## 該当する環境行動指針 5.情報の公開

### シマダヤグループは毎年 ISO14001 の審査を受けています

#### ISO14001 審査登録状況

- シマダヤ株式会社**
- ▶ 登録日: 2004年7月16日
  - ▶ 更新日: 2013年7月16日
  - ▶ 有効期限: 2016年7月15日
  - ▶ 登録範囲: 麺類及び関連食料品の研究開発、製造並びに販売

#### ISO14001 適用事業所

社名	登録日
東京シマダヤ株式会社	2004年 7月16日
宮城シマダヤ株式会社	2009年 3月23日
中部シマダヤ株式会社	2009年10月16日
エス・エス・デリカ株式会社	2009年10月16日
埼玉シマダヤ株式会社	2010年 2月23日
高砂食品株式会社	2010年11月30日
株式会社群鶏センター	2011年 2月28日
丸中製麺株式会社	2012年 2月28日

審査登録機関名: (財)日本規格協会審査登録事業部  
登録番号: JSAE902

### 環境取り組みの情報を公開しています

#### 審査登録情報の公表について

シマダヤグループでは、(財)日本規格協会の規程に基づき「ISO14001 審査登録情報管理・公表マニュアル」を制定しています。ISO14001の登録証やロゴマークなどを使用する場合は、シマダヤCSR推進室へ申請書を提出し承認を得て使用するよう、適切に管理を行っています。

#### 第3回更新審査について

2013年2月に第3回更新審査を受け、観察事項4件、改善課題1件が検出されました。観察事項に対し修正処置および是正処置計画を審査登録機関へ提出しました。その結果、(財)日本規格協会の判定委員会において、ISO14001の要求事項を満たしたEMS(環境マネジメントシステム)が継続的に実施され、体制が維持されていることが承認され、3月12日付で登録が更新されました。

#### 観察事項

- 排水処理場の担当者の教育、および訓練または経験に基づく力量の記録がない
- 著しい環境側面である「水の使用」(井水)の記録はあるが、運用基準がない
- 排水処理場の緊急事態対応手順テストを実施し、課題が抽出されたが手順書が改訂されていない
- 監視・測定に使用する測定機器の校正記録がない

これらの内容は、他部門にも水平展開し、改善を行っています。

#### ホームページ、報告書で情報を公開しています

ホームページ「めんシマダヤ<味>なウェブ」では、2012年に環境のページをリニューアルし、具体的な取り組み内容を掲載しました。今までに発行した「環境報告書」、「社会・環境報告書」も掲載しています。また、各部門では計画に基づき、「社会・環境報告書」を取引先や来客などに配布し、取り組み内容を伝えています。



古谷 由紀子 氏

公益社団法人 日本消費生活  
アドバイザー・コンサルタント  
協会 (NACS) 常任顧問

#### プロフィール

- 中央大学法学部法律学科卒業、消費生活アドバイザー。
- CS、CSR、コンプライアンス、製品安全、リスクマネジメントを中心とした活動。
- (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 消費生活研究所研究員、日本経営倫理学会 会員、米国経営倫理学会 会員、経営倫理実践研究センター (BERC) フェロー、玉川大学非常勤講師。
- 内閣府「社会的責任に関する円卓会議」運営委員のほか、企業の社外委員(コンプライアンス専門委員会、業務品質向上委員会、品質諮問委員会など)、CSR関連として、企業のステークホルダーダイアログ、第三者意見執筆に参画。
- 論文: 「消費者から見たリコール情報」、「消費者参加型経営への提案」、「信頼確保に消費者の参画と評価のプロセス導入を」、「消費者対応報告書作成・公表の勧め」など。
- 書籍: 同友館「利益創出のための商品戦略」(共著)、三和書籍「環境問題アクションプラン42」(共著)、芙蓉書房出版「消費者志向の経営戦略」(2010.10月)、中央経済社「ISO26000実践ガイドー社会的責任に関する手引き」(共著) (2011.8月) など。

#### ● 社は「奉仕・努力」を現代の社会・環境への責任と融合していくことを期待

「社是を原点に社会・環境との関係構築を考えたい」とのトップコミットメントは貴グループが社会とともに、社会・環境への責任を果たしていくことへの力強いメッセージを感じます。また貴グループでは、環境においては「環境推進担当者会議」などの各種環境会議、「環境のひろば」による情報発信、お客様対応に関しては「お客様の声」検討会議のほか生活者対象のモニター試食会、工場見学など多様な内外のコミュニケーションが充実してきているようです。今後はさらに貴グループを取り巻く多様なステークホルダーとの対話をもとに貴グループの取り組みを検証・評価するなどを行うと効果的ではないでしょうか。

#### ● 環境を基調にさらなる社会課題への挑戦を期待

貴グループでは環境面において、安全・安心・おいしいの「こだわり」を基調としながら、製造時の工場排水管理、廃棄物の削減、CO<sub>2</sub>排出量の削減、容器包装量の削減、

減、資材の有効活用、環境会計の導入、従業員への環境教育など環境に関わる取り組みをPDCAに沿って年々拡大深化させています。今後は、貴社がCSRのベースに環境を置いていることを生かし、例えば現在の「麺作り教室」「工場見学」などの消費者向けの取り組みのなかに、貴グループの活動の実態や人材を活用した環境教育なども取り入れるとよいのではないのでしょうか。これはCSRにおける本業を通じた社会課題の解決への貢献につながると思われま。2012年に成立した消費者教育推進法は消費者教育における事業者の取り組みも期待しており、消費者の責任ある行動を促進するために、貴社の取り組みをさらに消費者・社会に還元し、持続可能な社会の構築を消費者とともに担っていくことを期待します。

#### ● 情報開示は社会との接点

今年も特に環境面の情報開示がいっそう進展していると同時に社会面の情報開示も進んできていることが評価できます。情報開示は社会との重要な接点です。さらに充実していくことを期待します。

#### 第三者意見を受けて



シマダヤ株式会社  
専務取締役  
(環境管理責任者)  
牧 実

古谷由紀子先生には、私たちの環境に関わる取り組みが、わずかずつでも前進していることを評価・激励していただき、さらに前回にも増して多くのご提案をいただき、心より感謝を申し上げます。  
シマダヤグループの環境取り組みは、当初管理部門を中心に始めましたが、毎年のように製造を担うグループ各社を追加登録して現在の姿になってきました。安全・安心を作りこむ品質管理の手法において重要な、「PDCAサイクルを回す」ことが、この取り組みにも

生かされ効果を上げていると考えます。  
情報については公開するだけでなく、生活者をはじめ、多くのお客様と直接対話することにより、私たちの活動が充実し、持続可能な社会の構築に貢献できるものと考えます。  
今後も、私共の社は「奉仕・努力」を基に社会および環境に対する責任を果たして参りますので、引き続き叱咤激励をお願い申し上げます。